

# みんなの議会

# はたす

NO.133  
平成21年2月5日



平成21年 鷹栖町「はたちのつどい」

1月11日メロディーホールにて開催されました。新しく成人となられた皆さん、おめでとうございます。

**第4回定例会** で決めたこと・**第6回臨時会**

委員会活動・研修報告・議会のうごき

一般質問

常任委員会行政視察報告

わたしの一言 **あとがき**

2ページ

3ページ

4～7ページ

8～9ページ

10ページ



人 自然 あったかす

# 「上川広域滞納整理機構」の設置、 「福祉灯油等助成事業」の補正予算可決

## 12月定例会で決めたこと

第4回定例会は、12月16日から2日間の会期をもって開催しました。

議長の行動報告と、町長職務代理者より町長の主要な動静についての行政報告を受けたあと、4名の議員が一般質問を行い、教育長の考えをたしました。

議案審議では、上川広域滞納整理機構の設置、土地開発公社の定款変更、条例改正2件、一般会計及び公共下水道事業特別会計の補正予算などの審議を行い、原案のとおり議決し、会期を1日残して閉会しました。

### 機構の設置

・上川広域滞納整理機構の設置

町税等の滞納整理に関する事務を共同で処理する組織の設置について議決をしました。

機構は、鷹栖町・東神楽町・当麻町・比布町・愛別町・上川町・東川町・美瑛町の中央部8町と大雪地区広域

連合で構成し、滞納整理事務を共同で行うものです。

### 定款変更

・鷹栖町土地開発公社定款の一部変更

監事が行う職務の根拠法律が変更されたことに伴う改正をしました。

### 条例改正

・鷹栖町国民健康保険条例の一部改正

出産育児一時金の支給額35万円に3万円を上限として加算する改

正をしました。  
・鷹栖町有住宅使用条例の一部改正

新築した北野小学校教員住宅の月額使用料を定めました。

### 計画の変更

・鷹栖町過疎地域自立促進市町村計画の変更

北野地区に建設中の小規模多機能ホーム「ぬくもりの家えん」内の地域交流スペースを市町村計画の中に加えました。

### 補正予算

#### ■一般会計

歳入歳出予算にそれぞれ1,701万円を増額し、予算総額を52億6,698万円としました。

補正の内訳  
・総務費 145万円  
・民生費 609万円

衛生費 114万円  
・農林費2,267万円  
・土木費△721万円  
・教育費△713万円

#### (主な内容)

・庁内OAシステム改修委託他189万円  
・ふるさとまちづくり応援基金積立 116万円

・町長選挙費 △214万円

・福祉灯油等助成 569万円

・農業機械等導入補助 2,329万円

・融雪槽等設置助成 △701万円

・小中学校各種大会等参加負担補助 280万円

・工事等事業確定に伴う執行残の補正 △892万円

・歳入歳出予算にそれぞれ

△892万円

#### ■公共下水道事業特別会計

歳入歳出予算にそれぞれ

それぞれ12万円を増額し、予算総額を4億3,252千円としました。補正の内容は、工場検査旅費です。

第6回  
臨時会  
11月12日

・鷹栖町副町長の選任  
同意

天井前副町長の任期満了に伴う、後任者の選任に同意しました。

・鹿野 正巳さん

北1条1丁目

・鷹栖町教育委員会委員の選任同意

鹿野前教育長の教育委員辞職による教育委員の欠員に伴う、後任者の選任に同意しました。

・山口 春季さん

南1条6丁目

なお、山口氏は11月12日に開催された鷹栖町教育委員会で、教育長に任命されました。

# 委員会活動・議会のうごき

## 委員会活動

### 議会運営委員会

10月6日・21日

鷹栖町議会の議会改革への取り組みについて審議しました。

11月10日

第6回臨時会で提案される案件について説明を受けました。

12月10日

第4回定例会で提案される案件など、議会運営について協議し、会期を2日間と決めました。

12月17日・29日

議会報告会の開催結果について審議しました。

### 総務文教常任委員会

12月8日

第4回定例会で提案される議案について説明を受け、内容を審議しました。

### 経済福祉常任委員会

12月5日

第4回定例会で提案される議案について説明を受け、内容を審議しました。

## 議会広報研修会 及び行政調査

8月19日、札幌市で

開催された議会広報研修会（北海道町村議会議長会主催）に、議報特別委員が出席しました。広報プランナー和田雅之氏の「議会広報づくりと現代の潮流」と題する講演で、専門家の視点から、読者が求める議会報であることの重要性や、紙面づくりの基本など、今後の「みんなの議会」作成に大変参考になりました。



和田雅之氏

## 管内町村議会 議員研修会

10月21日、旭川市で

開催された議会議員研修会（上川町村議会議長会主催）に出席しました。

はじめに、旭川医科大学学長の吉田晃敏氏から「旭川医科大学が推進している地域医療」と題して、現在の医師不足に対応するための遠隔医療の重要性等について、次に元総務大臣・片山虎之助氏からは「これからの地方自治」と題して、現在の政局や経済等、幅広い視点からお話をいただきました。



片山虎之助氏



吉田 晃敏氏

## 議会のうごき

|       |  |        |  |
|-------|--|--------|--|
| 9月28日 | 第11回Honda秋祭り   | 11月12日 | 第6回鷹栖町議会臨時会  |
| 10月3日 | 鷹栖町退職議員親睦会<br>総会及び懇親会（比布町）<br>オクトーバーフェスタ                             | 11月13日 | 小平町議会ごみ処理対策等<br>調査特別委員会 視察来庁<br>鷹栖小学校開校<br>110周年記念式典 |
| 4日    | 議会運営委員会  | 15日    | ソフトボール連盟納会   |
| 6日    | 北海道鷹栖養護学校開校  | 8日     | 上川町村議会議長会<br>臨時総会（東京都）                               |
| 10日   | 30周年式典・祝賀会（旭川市）<br>天皇陛下御即位20年<br>奉祝の集い（旭川市）                          | 19日    | 第52回町村議会議長<br>全国大会（東京都）                              |
| 11日   | 福祉のつどい2008   | 20日    | 北海道の自衛隊体制維持を<br>求める中央決起大会（東京都）                       |
| 17日   | 国際交流アシスタント惜別会  | 26日    | 第1回議会報告会   |
| 21日   | 議会運営委員会<br>平成20年度上川支庁管内<br>町村議会議員研修会<br>及び講師との懇談会（旭川市）<br>当別町議会運営委員会 | 28日    | 鷹栖保育園 開園式  |
| 22日   | 視察来庁<br>国際交流アシスタント離任式<br>議員協議会                                       | 3日     | 上川中央都市・町議会   |
| 30日   | 石破大臣・今津ひろし衆議と<br>上川の未来を語る集い<br>（士別市）                                 | 5日     | 正副議長定例会議<br>（旭川市・比布町）                                |
| 11月1日 | 鷹栖さつき苑開苑<br>20周年記念式典   | 8日     | 経済福祉常任委員会  |
| 2日    | 佐藤節雄町長退任式  | 10日    | 総務文教常任委員会<br>議員協議会                                   |
| 4日    | 助安嘉和町長就任あいさつ   | 14日    | 鷹栖小学校スクールバンド<br>東北大会出場記念コンサート                        |
| 5日    | 地域安心拠点「めくもりの家<br>えん」新築工事に係る上棟式                                       | 15日    | 鷹栖小学校二音楽隊<br>陸上自衛隊第二音楽隊                              |
| 8日    | 議会運営委員会  | 16日    | 第33回定期演奏会（旭川市）                                       |
| 10日   | 鷹栖小学校開校<br>110周年記念式典   | 17日    | 第4回鷹栖町議会定例会  |
|       |  | 25日    | 議会運営委員会  |
|       |  | 29日    | 鷹栖町友好訪問団歓迎会<br>議会運営委員会                               |
|       |  |        | 鷹島町友好訪問団お別れ会   |



近藤 義紀 議員

問 学校図書室の整備

答 学校と連携を  
とりながら進める

質問

※学校図書館図書標準…文部科学省で設定している、学校図書館の図書整備を図る際の目標冊数のことで学級数に応じて計算される。

文部科学省は1993年、学校図書館図書標準冊数を定めています。本町の小学校は、鷹栖小学校が14学級、北野小学校が10学級で、基準に程遠い蔵書冊数です。

また中学校は9学級で、やっと基準を満たしている状況です。蔵書を増やせば本を読むようになるとは単純に言えませんが、読書量と学力には高い相互関係があると考えます。

国では、地方交付税に学校図書館図書整備費として計上しており、道内では図書整備率が2006年度末で、小学校が17・3%、中学校が12・4%で、これは共に、全国最下位となっています。そこで文部科学省は、昨年度から5年間、毎年200億円ずつ、計1,000億円を市町村に配分して、配分額を54%増やす手法をとりました。

しかしながら、本町の各学校への図書購入予算は過去数年と同額で、なんら変わっていません。今後、学校図書の整備に対し、教育長はどのように対処していくのかを伺います。

答弁 教育長

国の基準となっている学校図書館図書標準冊数で、19年度末ですが、それぞれの達成状況については、鷹栖小学校で約42%、北野小学校で約69%、鷹栖中学校で104%となっています。

また交付税については、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づいて、学校図書のさらなる整備というところで平成14年から増額になり、19年度からは新学校図書館整備5カ年計画を受け、図書費が約1・5倍程度増えています。一方で児童数一人当たり、また学級の単価・学校の単価はそれぞれ下がっていて、全体的な交付税については、伸びていない状況です。

この様な中で学校図書は、教育活動に欠かすことのできない重要なものであると、私も考えています。特に児童生徒の自発的・主体的な学習活動を支援しながら、様々な教育課程の広がりがありますし、また学力向上の有効な手立てとして、児童生徒の自由な読書活動や読書指導の場として、思考を深め、想像力を養い、学習に対する興味関心等呼び起こし、豊かな心を育てて考えています。

一方、辞書や辞典などをを用いて行う調べ学習では、コンピュータの活用やインターネットの利用等で、学習にも大変重要なものとなっていますが、時代の流れに対応した教育にも取り組んでいかなければならないと考えています。



小学校の図書室





※教育基本法13条…学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

植西 辰義 議員

問

学校支援地域  
本部事業の活動

答

より学校と地域が  
連携できる体制を作る

質問

平成18年12月の教育基本法改正により、第13条で、学校・家庭・地域住民等が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚した相互の連携協力の重要性について条文化されました。このことを具体化するために平成20年度、文部科学省では、学校支援地域本部事業の立ち上げ目標を、全国1,800箇所の中学校区を対象にしました。11月現在、全国で84、

北海道は、179の市町村がこの事業に取り組もうとしているところで

町では以前から、学校と地域との連携は十分に図られていると思えますが、地域が持っている潜在的な教育力をうまく引き出すことが、この事業の成否を分けると考えています。この事業は、学校側からの依頼に対して地域住民の方が、ボランティアの精神で支援する活動に限ることですが、教育長はこの

事業に対してどのようなことをしているのか伺います。

また、学校支援地域本部事業実行委員会の進捗よく状況と、キーマンと言っべき地域コーディネーターの人選や学校支援ボランティアの募集方法を伺います。

答弁 教育長

近年、青少年をめぐるさまざまな問題が発生していますが、その背景に、地域の教育力の低下が指摘されています。また、教員と子どもが向き合う時間の拡充、教員が子ども一人ひとりにきめ細やかな指導をするためには、多忙な教員を支援し、勤務負担の軽減を図ることが重要と考えています。

今までのボランティア事業との連携につい

ては、スキー学習、社会科見学、選択体育などの学習支援や、味噌作り・米作り、老人大学との交流等での体験学習の支援もいただいています。

登下校の安全確保については、交通安全教室など安全指導の支援、またPTA等による環境整備活動や、文化サークルで行う校内ギャラリへの展示、外部指導者による部活動の支援、さらに老人会・文化団体などからも学校ニーズに応じた支援が今までも行われています。これらの事業をそのまま活用しながら、地域全体で学校教育を支援するために学校支援地域本部事業に取り組んだところです。

地域コーディネーターは学校に密着した中でニーズを掘り起こし、

教師との意見交換や支援ボランティアの調整作業が求められていますので、学校と密接に関わっている教育指導主事と、老人大学の交流学習などの展開をしている生涯学習指導員がコーディネーターの役割を担っています。現在、改善点検作業を行っており、地域教育に関する啓発や支援ボランティアの募集登録についても支援情報一元化を図り、迅速有効に対応できる体制作りを検討しています。



老人大学と小学生の交流学習



木下 忠行 議員

問

スポーツ少年団  
連絡協議会の事務局体制

答

地域力を  
生かしながら支援

質問

鷹栖町スポーツ少年  
団連絡協議会は、平成  
6年より保護者や指導  
者有志と教育委員会が  
協議を重ね、子ども達  
が減少している中での  
全町の取り組みや、各  
少年団の財政基盤、交  
通手段、指導者の確保  
などの共通の課題を持  
調のもと、平成8年に  
結成されました。

現在も情報交換のほ  
か、「スポちび交流会」

「スポチャンピック」  
などの保護者を交えた  
活動や、教育委員会と  
の懇談会も継続してい  
ます。

本来、連絡協議会の  
事務局は教育委員会に  
置き、町外の組織との  
情報交換や情報の一元  
化を図り、町内にあつ  
ては育成会の活動や指  
導者の実態をしっかりと  
と把握し、協議会の継  
続性を図るべきです。  
また、設立当初からの  
課題である指導者確保  
についても、鷹栖町体

育協会加盟団体と継続  
的な協議を進めること  
や、人材登録事業の更  
なる拡充により、町民  
の中に存在するであろ  
う指導者情報の収集・  
活用などの役割も担う  
べきと考えます。

そうすることが、保  
護者や指導者と教育委  
員会との信頼関係を更  
に深め、結果として子  
ども達の活動環境の充  
実にもつながり、心身  
ともに健全な青少年の  
育成に資するという目  
的が達成できるのでは  
ないでしょうか。

教育長のスポーツ少  
年団に対する現状認識  
と、今後の対応につい  
て伺います。

答弁 教育長

連絡協議会は、鷹栖  
野球少年団・北野野球  
少年団・鷹栖剣道少年

団・鷹栖北野バドミン  
トン少年団・アルペン  
スキー少年団・北野ク  
ロスカントリー少年団  
の6団体で構成され、  
色々な活動の普及・育  
成のために、連絡協議  
会ができていますと考  
えており、子ども達のた  
めにご尽力いただいで  
いると認識しています。

連絡・情報の一元化  
については、教育委員  
会で対応していかなけ  
ればと考えていますが、  
色々な形で地域の方々  
にお願いをしながら連  
絡協議会の体制を作っ  
ていただいていますので、  
教育委員会が事務局  
局を持てば全部が良く  
なっていくというより、  
少年団ごとに目標とす  
るものが違う部分もあ  
りますので、地域力を  
生かしながら、保護者  
の方々が運営してい

方が良いと思っていま  
す。

教育委員会としては、  
少年団活動や指導者の  
実態をしっかりと把握  
しながら町民の中に存  
在する指導者情報の収  
集や活用について、体  
育協会や関連団体の連  
携をより密接にとり、  
潜在する指導者の発掘  
や登録を行い、各少年  
団のスポーツの活動を  
支援していきたいと考  
えています。





百武 和重 議員

問 新型インフルエンザ 感染対策

答 関係機関と 十分な連携を図る

質問

定めました。

そこで、学校での感

近年、東南アジアを  
中心に、新型インフル  
エンザが流行していま  
す。感染は増加の一途  
をたどり、死亡例が報  
告され、新型インフル  
エンザに備えた対応が  
急務となっています。

わが国においてもそ

の対策を推進しており、  
応急体制を整備するこ  
とが必要であると発表  
していますし、道では、  
北海道新型インフルエ  
ンザ対策行動計画を策

染予防をどのようにす  
れば良いと教育長は考  
えているのか。また、  
これまでに学校での予  
防対策は行っているの  
か。もし予防対策を実  
施しているならば、ど  
のように指導をしている  
のか伺います。

次に、道では、学校

や学校の設置者に対し、  
新型インフルエンザが  
発生した場合の連絡体  
制や対応計画等につい  
て、日頃から検討を進

め、学校内等での共通  
理解を図るように通知  
していますが、学校で

感染者が出た時の対応  
策はどのようになつて  
いるのか。緊急時のた  
めに、小中学校におけ

る新型インフルエンザ  
ガイドラインや対応マ  
ニュアルがあるのか。

なければ、作成や、そ  
れに準じた対応訓練が  
必要と思いますが、教  
育長の考えを伺います。

答弁 教育長

新型インフルエンザ  
をめぐる最近の動向と  
して、WHOによりま  
すと246人の方が死亡し

ており、新たな発症事  
例が見られ、危険性は、  
高いレベルにあると感  
じています。

学校における予防対  
策は、一般の感染予防

対策と同様に、マスク  
の着用・うがい・手洗  
いが有効な方法であり、  
それに対する周知徹底  
をすることが大切だと  
思います。

正確な情報を提供す  
ること、正しい認識を  
持つこと、さらにその  
対応に共通した理解を  
深めたいと考えていま  
す。

学校の予防対策状況  
は、うがい・手洗いの  
励行です。

次に、発生した場合  
の対策としては、学校  
保健法施行規則の一部  
改正で、平成19年に文  
部科学省が新型インフ

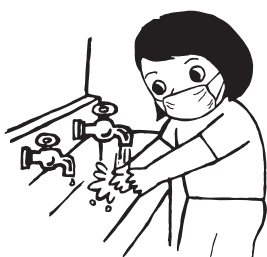
ルエンザ行動計画を策  
定しており、学校で出  
席停止の措置を適正に  
講じることができると  
になりました。

新型インフルエンザ

の疑いが生じた場合は、  
関係機関と十分な連携  
を図りながら、すぐに  
出席停止などの適切な  
措置をとりたいと考え  
ています。

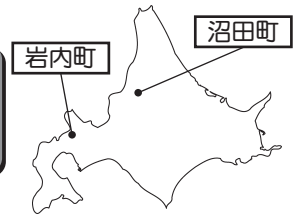
対応マニュアル等は、  
国・道で行動計画等の  
見直しが続けられてお  
り、的確な情報を共有  
しながら対処していき  
たいと考えています。

児童・生徒が、新型  
インフルエンザばかり  
でなく、普段から病気  
にかからないような予  
防対策の徹底を図って  
いきたいと考えていま  
す。



## 総務文教常任委員会

平成20年8月27・28日（2日間） 岩内町・沼田町



### 空き店舗等を利用した商店街活性化対策（岩内町）

#### 調査概要・内容

後志沿岸地域の中心都市として、漁業や水産加工業を基幹産業として発展してきたが、これらの産業の衰退や人口減少に加え、郊外型大型店の進出に伴い地元商店街や飲食店街が著しく疲弊するばかりでなく、地域社会としての活力を失いつつある。

事業主の高齢化や後継者不足等の影響を受け、空き店舗の増加、空洞化現象に拍車がかかり、旧型の商店街における消費動向は低下の一途をたどっている。このような危機的状況のなか、岩内名店街協同組合が事業主体となり空き店舗対策事業「いわない楽座事業」を推進している。また、ポイントカード加盟店に町内のタクシー会社が加盟したことにより、タクシーレシートのポイント加算業務を「いわない楽座」で実施することになり、従来訪れなかった顧客が足を運び、ポイントカード常設交換所が消費者

に確実に浸透している。

#### 委員会所見

ポイントカード加盟店を増やすことにより、顧客の固定化、商店街の活性化を図ろうとしている。

本町は、大型店まで10分から15分の位置にあり、品揃えの多い店へ行く消費者が多数見受けられるので、購買力の流出防止について対策を講じる必要があると考える。



### ポイントカードを活用した商店街活性化対策（沼田町）

#### 調査概要・内容

商業の都市間競争や地域間競争が激化している状況のなか、商圏内生活者の固定客化と購買力の流失防止に備えて、各店での品揃えの充実、低価格、店舗演出、立地対策、親しみのある接客サービスの他にポイントカードシステムという新しい販売促進策を採用することにより、密度の濃いマーケティングが急務となってきた。

シールサービスをカード化することにより、販売促進・顧客の固定化策となり、商店街の活性化につながる事ができる。

地元購買の促進、他地域への購買力流出防止、大型店対策、地域商業の活性化など地域社会へのPRのため地域小売業者やサービス業者がポイントカード発行組織を結成して実施している。

多くの商工会会員店が、消費者の購買金額に対し

てポイントサービスを実施し、消費者は現金同様に使用したり、イベント等に利用できる。

#### 委員会所見

商店街活性化対策で、お客様が生活する地域社会をより良いものにする為、町の担い手を支援しているという姿勢は見習う部分がある。

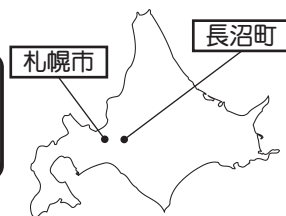
本町も、大型店、大手スーパーが近い位置にあり難しいとは思いますが、購買力流失防止策を考える必要がある。





## 経済福祉常任委員会

平成20年8月25・26日(2日間)ホクレン農業協同組合連合会・長沼町



### バイオ燃料の取り組み・米の販売状況と農業資材・肥料の今後の展望(ホクレン農業協同組合連合会)

#### 調査概要・内容

バイオ燃料は北海道の農産物を利用して、地球温暖化の防止や農業の基盤強化、地域経済の活性化につながるものであり、原料としては規格外小麦や交付金対象外てん菜などを利用する。

米の販売状況については、府県産の過剰作付けなどで全国的に厳しい販売環境が見込まれることから、播種前契約の取り組みによる価格向上をめざす。



ゆめぴりかについては、栽培履歴の完全記帳や関係団体と連携し栽培から販売まで視野に入れたブランド化を目指す。

生産資材費の高騰対策等について、JAグループとして国に対し強く要請している。肥料価格抑制対策として価格激変緩和対策や原料の早期手配、土壌分析による適正施肥等の推進を図っていく。

#### 委員会所見

本町においても稲藁や粉穀の利用拡大が望まれ、バイオエタノール製造がそのきっかけになれば地域の活性化につながるものと期待している。

ゆめぴりかは、美味しさと価格上昇にもつながる待望の品種であり、消費者の高い評価を目指した産地の取り組みが期待されている。

生産資材費・農機具等が値上がりし、平成21年は肥料価格が6割高になる見込みである。農家経営のコスト削減にも限界があり、農業生産を大きく圧迫する状況にあることから関係機関の早期対策が望まれる。

### 特産品の販売(行政・農協とのかかわり)と地産地消の取り組み(長沼町)

#### 調査概要・内容

農産物直売所は6箇所あり、「マオイの丘公園農産物直売所」では、構成団体8グループで休日が重ならないように工夫しながらイベントを行うなど、戦略的な販売施設となっている。行政は施設の提供



をし、農協は年間を通しての販売協力を行っている。

地産地消については、学校給食に地元米を年間17,000kg、野菜も全体

の1/3を使用している。また、「郷土料理の日」をもうけ、生産者が野菜の作り方等の説明を行い、食の楽しさを伝える食育を進めている。

グリーン・ツーリズム(農家民宿・体験交流)により、道外の修学旅行生を平成19年度で3,300人受け入れるなど、行政や農協がサポートしている。

#### 委員会所見

生産者が直接消費者に販売している姿は生き生きしており、消費者も生産者の顔を知ることにより次回販売につながると思われる。また、学校給食の食材や修学旅行生受け入れ、特区認定による地元米での濁り酒作りなど、農業を生かした町づくりがなされている。

本町においても、地元農産物を定期的に購入できる体制づくりが必要と思われる。また、生産者と消費者のつながりをさらに深める事業展開が望まれる。



## 遠くの親せきより 近くの他人に感謝

増田 善司

(メロディー町内会)

私の出身地は、かに祭などで知られる枝幸町で、兄弟妹の4人兄弟で育ちました。現在私以外は夫婦揃って健在ですが、遠方の為もありますが、日常的に交流出来ないのが現実です。決して兄弟仲が悪い訳ではなく、節目節目には交流をしております。私のタイトルにしました「遠くの親せきより近くの他人に感謝」ですが、私には言葉で云い表せない程親身と及ばぬお世話になった人が、近所のご夫婦です。妻を亡くして途方にくれ、生きる望みを失いつつあった時、このご夫妻の暖かいはげましの言葉と支援に支えられ、其の苦しみから抜け出すことが出来、今の生活があります。常日頃、心から有難く感謝していること、このご夫妻は元より社会福祉協議会ボランティア、婦人部、民生委員の皆さんに、改めて誌上をかりて深く感謝申し上げます。

鷹栖町は全道で福祉事業の推進はトップ3に入ると聞いております。今回の新町長さんにさらに期待と希望を託したい思いです。どうか健康に留意され職務に邁進されることを願っております。

## ● わたしの一言

## ● 日頃思っていること



## ここにある 「あったかす」

有馬 宏実

(豊央町内会)

豊央に移り住んで丸3年が過ぎました。

近所には子供が少なく、心配でしたが、スクールバスで通う幼稚園で、息子はたくさんのお友達と楽しく毎日過ごしています。来春から通う小学校も楽しみにしています。

私自身は、小さな畑がせっかくあるんだからと、気軽に始めた家庭菜園でしたが、循環型有機農法や不耕起・無農薬栽培に目覚め、すっかりのめり込んでしまいました。昨年からは、花などを育てるガーデニングにも手をつけています。

少しずつだけど、前に進められているのは、近所の方達のおかげ。馬フン堆肥、ワラ、米ヌカだけでなく、薪も分けてくれたりと、どっぷり田舎らしく暮らせる材料があるからです。野菜や漬物を玄関先に置いてくれるのもうれしいシーンです。お米を農家さんから直接購入できる環境が、すっかり当たり前になったことも…。

考えてみれば、この地でよそ者の私たちが心地よく暮らせているのは、あったかい気持ち、たくさん集まっているからなんですよ。

やっぱりここは、私達にとっても「あったか巣」でした。



穏やかな天候の中、この新年を迎えられたことを喜び申し上げます。

今定例会では、四名の議員による一般質問、上川広域滞納整理機構の設置、定款の変更、条例の一部改正、各会計の補正予算、過疎地域自立促進市町村計画の変更等を審議しました。

また、常任委員会行政視察報告内容を掲載しました。昨年からの国内外で起きている諸問題を考えてみると、町民の皆様と共に安心して生活ができる方法を考えることが行政と議会の重要な責務と思えます。また、基幹産業の農業では自給率向上のための諸政策が出されようとしていますが、それを追い風として町の活性化につながればと考えます。

最後に、「わたしの一言」にご寄稿くださいました、増田 善司 さん  
有馬 宏実 さん  
ありがとうございました。

編集委員一同